

平成30年度

公益財団法人名古屋みなと振興財団 事業報告書

I 総括事項

平成 30 年度は、名古屋港水族館で飼育展示している平成 29 年度に人工授精により妊娠したバンドウイルカ 1 頭が 5 月に無事出産し、子イルカも順調に生育している。

また、クラゲ類を展示する新施設「くらげなごりうむ」や「ウミガメ回遊水槽」をリニューアルし、新たな魅力づくりに取り組んだ。

また引き続き、海事思想の啓蒙と海洋文化の普及及び海洋生物等の展示並びに調査研究に努め、併せて観光事業の振興を図り、名古屋港の発展に寄与することを目的として次の事業を行った。

1 公益目的事業

(1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 体験プログラムを通じた海洋文化の普及（資料 1）

小中学生（大人含む）若しくは小学生とその家族（保護者）を対象とした水族館内でのスクール、講演会など主に水生生物に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 館内スクールとして「水族館スクール」を開催した。昨年度に引き続き「君もドリトル先生になれるか！」「もっと知りたい！ダーウィン教室」の 2 種を実施した。前者は、比較的手軽に参加していただけるスクールとしてバックヤード見学を中心とし、小学生とその家族を対象として開催した。特に応募の多かった講座については回数を追加して実施した。後者は、より生き物好きな人に満足していただけるよう、少人数で作業や実験・観察を行う充実した内容のスクールとした。

イ 名古屋市及び全国 17 都道府県で採用している小学 4 年生の国語の教科書（ひろがる言葉 小学国語 4 下：教育出版株式会社）に、平成 28 年度から当館のウミガメに関する取り組み（飼育、放流調査研究等）が紹介された。内容を補完するために、名古屋港水族館ホームページにウミガメ特設コーナーを設置、市内教員向け著者講演（バックヤード見学会）、市内児童向けウミガメレクチャーの 3 点を実施した。

※実績

- ・市内教員向け著者講演 10 校 24 名参加（8/20・21 の 2 回実施）
- ・市内児童向けウミガメレクチャー 16 校 944 名参加（10/16～12/7 に計 11 回実施）

ウ 水族館に宿泊して水族館の生物の観察などを行う「お泊り水族館」を小学生の家族を対象に実施した。また、閉館後の水族館の生き物たちの「夜の生態」を見学する「ナイトウォッチング」を開催した。

エ 7 月 28 日から 8 月 12 日の期間、名古屋駅前の商業施設ミッドランドスクエアにおいて当年度で 11 回目となる「名古屋港水族館 AQUA LIVE！ in ミッドランドスクエア 2018」を開催した。タコクラゲ、熱帯性海水魚、

ウミガメの子ガメを始めとする生物展示のほか、シャチの大型パネルや映像を交えてシャチのリンの成長の様子を紹介した。別のモニターを使って名古屋港水族館のイメージ映像を上映しながら、パネルではサマーナイトアクアリウムや7月21日にオープンした新施設「くらげなごりうむ」を紹介し、来場者の満足度を高めるとともに名古屋港水族館への誘客も図った。

オ 特別展は、昨年度より継続して「カメ、知ってる？～意外に知らない日本のカメ事情～」を5月28日まで実施し、7月14日から1月20日まで容姿が一見気持ち悪いが、どこかかわいらしいところがあったり、不恰好に見えるけどかわいらしさがある生物を紹介する「へん(だけど)カワ(イイいきもの)展」を、また、3月16日から寿司ネタとしての生物を水族館の視点で紹介することを目的として「寿司ネタ大集合～水族館が斬る！寿司のいろいろ～」を開催した。加えて“七夕”、“ハロウィン”、“クリスマス”、“正月・干支”など時節ごとの展示も行った。

② 機関紙等による情報提供（資料2）

ア 水族館機関紙「さかなかな」を年4回発行した。また、学習教材「かんさつノート」は、生物状況に応じて改訂し、来館した小中学生の希望者に配布した。特に教育旅行で訪れた小中学校の団体には企業協賛で増刷した簡易版を提供し、教育普及に活用した。

イ 生物情報紙「新着！海の生き物レター」は、7回発行し、来館者に対して当館で初めて人工授精によるバンドウイルカが誕生したこと、北海道知床半島沖のシャチ調査に当館のシャチトレーナーが参加して野生のシャチを間近で観察したことなどタイムリーな話題を提供した。

③ 体験プログラムを通じた海事思想の普及（資料3）

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 「帆船模型展」、「工作教室（ペーパークラフト教室、立体カード工作教室、ボトルシップ製作教室）」、「南極教室」、「南極観測船ふじでの星空見学会」、「夏休み工作教室（立体ノート工作教室）」等の事業を実施した。

イ 親しまれる港づくりの一環として、元旦にポートビル展望室から初日の出を眺めるイベント「港から始まる2019」を実施し、172名が参加した。

④ 学生の職場訪問及び教員研修等の受け入れ（資料1）

教員、学生を対象とした教員研修や職場訪問・体験指導などを受け入れ水族館及び海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体へのレクチャーを実施することにより、参加者を通じて一般市民へ海洋文化及び海事思想の普及を図った。

⑤ ボランティアの育成、活用（資料4）

ボランティアを育成、活用することにより、当該ボランティアスタッフ及び来

館者へ海洋文化及び海事思想の普及を図った。

ア 水族館のボランティア活動は、本年度登録者数 202 人で実施した。主な活動は、来館者への展示生物の解説や水族館スクールの補助に加え、ボランティアが計画実施する朗読会や工作会の開催等で、(年間活動延べ人数は 3,005 人) 総活動延べ時間は 9,212 時間 35 分であった。

イ 南極観測船ふじのボランティア活動は、解説ボランティアとメンテナンスボランティアの 2 種類を実施した。解説ボランティア (13 名) は、館内施設の説明等を実施し、来館者から好評を得た。総活動延べ時間 587 時間であった。また、メンテナンスボランティアは、4 名で船体及び周辺施設の塗装・修理等を実施し、施設の維持に大きく貢献し、総活動延べ時間は 93 時間であった。名古屋海洋博物館でも博物館の更なる魅力向上のため、ボランティア (3 名) による解説活動を行っており、総活動延べ時間は 260 時間であった。

⑥ 研究会・ゼミナール等の開催 (資料 3 及び 5)

ア 名古屋港水族館は、京都大学野生動物研究センター及び三重大学大学院生物資源学研究科のそれぞれと共同開催で、種の保存に向けて水族館が研究機関と共同で行っている研究活動を紹介するために、学術交流協定共同研究講演会「遺伝子から野生動物を見る ～野生動物保全ラボの挑戦～」(講師: 京都大学野生動物研究センター 村山美穂センター長) (参加者 51 名) と「伊勢湾のスナメリ 私たちに身近なイルカの暮らし」(講師: 三重大学大学院生物資源学研究科 吉岡基教授) (参加者 79 名) を実施した。

イ 主に名古屋港を職場とする会社の職員等を始めとした市民を対象に「名古屋港港湾ゼミナール」を開催し、港湾情勢の他、経済・社会の変化など幅広い見識を深めた。

⑦ 指定管理施設 (水族館) を活用した海洋生物の展示等 (資料 5)

海洋生物の展示を通して次のとおり海洋文化にふれあう場を提供した。展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者や解説ボランティア等による解説等を積極的に行い、来館者への海洋文化普及を促した。

ア シャチ「ステラ」「リン」「アース」の 3 頭の展示を継続し、併せて公開トレーニングをメインプールにおいても実施した。「リン」と「アース」が広いプールを活発に泳ぎ回りジャンプする姿や観覧席の直ぐ目の前に上陸する姿は人気を集め、これまで以上に多くの来館者に好評を博した。なお、「アース」はオスであるため、メスである「ステラ」「リン」との分離訓練を昨年同様不定期に実施した。平成 30 年 11 月 13 日に「リン」は 6 歳を迎え、体長が 4.6 m、体重が 1.4 トンを超えるなど順調に成長している。平成 30 年 10 月 13 日に 10 歳となった「アース」も体長が 5.3m、体重が 2.1 トンを超え、背鰭・胸鰭・尾鰭の各鰭が大きくなりオスの二次性徴の特徴が見え始めている。

イ バンドウイルカの繁殖について、「アン」「ユウ (5 歳メス)」親仔に加えて、

「ゼロ」「カイ（4歳オス）」親仔・「ココ」「ソラ（2歳オス）」親仔がパフォーマンスに参加するためメインプールに移動する練習を行い、不定期ではあるがパフォーマンスに参加できるようになった。また、平成29年度に誕生した腰部に湾曲的症狀がある「ハッピー」と人工授精に成功し平成30年5月17日に誕生した「ハル」は順調に生育し現在展示中である。バンドウイルカの繁殖個体は5頭となった。

ウ 平成21年に誕生したカマイルカ「アイ」は9歳を迎え、イルカパフォーマンスに継続的に参加している。ジャンプで3回ひねりを入れる種目「垂直バレルロール」をイルカパフォーマンスで公開し、引き続き好評を得ている。

エ 平成29年7月21日に新設された「ごまちゃんデッキ」では「フィーディングタイム」を実施し、好評を得た。また、平成30年3月下旬からは「ペンギンよちよちウォーク」を定期的に開催し、しおかぜ広場に多くの来館者を集めた。

オ 平成19年7月25日に誕生したベルーガ「ナナ」、平成24年8月2日誕生した「ミライ」は、共に順調に成長し、それぞれ7月と8月に11歳と6歳を迎えた。このほか、ベルーガの生態を更に分かりやすく紹介する目的で実施しているイベント「ベルーガの不思議な魚の食べ方」を本年度も継続実施した。また、平成30年度は、2階及び3階の観覧側に高輝度プロジェクターを設置し、天井や壁に自然のベルーガや北極環境の映像、公開トレーニングの様子をリアルタイムで投影し展示効果を高め、来館者に楽しんでいただけた。

カ 3月25日にゴマフアザラシ「ナノハ」が第二子を出産したが、残念ながら死産であった。

キ 7月21日からクラゲ類を展示する新施設「くらげなごりうむ」をオープンし、当館初となる大型水槽によるクラゲの展示や鏡を用いた演出を行った。また、クラゲ飼育作業の様子が観察できるコーナーも設置した。

ク 「ウミガメ回遊水槽」を3月28日に約15か月間の工期を経てリニューアルし、擬岩の改良や観覧面の間口を大きくするとともに観覧ガラスには透明度の高いミュージアムガラスを用いて展示効果を高めた。

ケ “南極の海”コーナーの展示面を南極をイメージした擬氷を設置するなどの改修を行った。また、解説モニターやプロジェクターを一新して、南極観測船ふじの映像を紹介するなど展示効果を高めるとともに、ガーデンふ頭の回遊性に資する取り組みを行った。

コ 公式ホームページでは、トピックスの頻繁な更新、飼育員が書き上げる「スタッフブログ」や広報スタッフによるフェイスブックへの投稿など、多くのお客様に興味を持っていただけるような最新情報の発信に努め、平成30年度のホームページアクセス件数は2,712万件（前年度3,023万件）となった。また、フェイスブックを見た多くの方に関係する当館のホームページを見られるよう、極力タグをつけるようにした。また、SNSでの情報発信についてはフェイスブックに加えてインスタグラムを始めた。

- サ 夏休み、春休みなどの集客として、東海地区、関西・北陸地区及び長野県へのテレビコマーシャルの放映及び雑誌や新聞への広告、ラジオ番組への出稿などに取り組むとともに、新たな広告手法としてフェイスブック、インスタグラムを中心とした SNS 広告を取り入れた。さらに、広告チラシを作成し、一般市民へ提供するとともに県下の小学校を通じて児童に配布した。
- シ マスメディアに対しては、話題性ある情報提供ができるよう積極的なニュースリリース及び取材対応に努め、81 件のニュースリリース（前年度 84 件）と 257 件の取材対応（前年度 268 件）を行い、多くのマスメディアに取り上げられた。
- ス 観光キャンペーンの一環として愛知県はもとより、静岡県、長野県、福井県、兵庫県で一日水族館を実施し、観光推進 PR 及び誘客に努めた。また、観光関係機関等が主催する旅まつり名古屋 2019 に積極的に出展した。
- セ ゴールデンウィーク、夏期間、年末・年始、春休み及び 5 月の運動会の振替休日は、休館日に臨時営業し、集客に努めた。また、ゴールデンウィーク、夏休みには、夜間営業を実施し「夜間割引」を行った。その結果、平成 30 年度の入館者数は 2,105,406 人（前年比 94.8%）となった。また、ガーデンふ頭地区駐車場における乗用車の利用台数は 282,827 台で、前年度比 93.8%となった。
- ソ 名古屋市主催の音楽とアートのイベント「アッセンブリッジ・ナゴヤ」に協力、北館エントランスや南館黒潮大水槽前でのコンサートが開催された。

⑧ その他

来館者の利便性を高めるため、3 月より電子チケットの取り扱いを開始した。これにより、水族館の入館券を購入するために券売窓口に並ぶ必要がなく、改札にスマートフォンを提示するだけで入館できる上、複数枚購入し、家族や知人に贈ることもできるようになった。

また、訪日外国人にもよく利用され、空港やコンビニエンスストアなど多くの場所で採用されている「Japan Connected-free Wi-Fi」に加入し、水族館内で公衆無線 LAN を利用できるようにした。

⑨ 指定管理施設（海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等（資料 3）

海洋博物館及び南極観測船ふじにおいて所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想普及を促した。

平成 30 年度の特別展として、「遙かなる海を越えて～帆船時代の冒険～」を 7 月 14 日～9 月 2 日に開催した。博物館 4 階にて、スパイスや装飾品等、各時代の文化的背景や、各地域の交易品、さまざまな帆船模型、コロンブスやマゼラン等航海史上欠かせない人物等、現在の常設展示では紹介されていない部分を追加するような形で展示を行い、期間中 27,669 人の人出で賑わった。

また、南極点到達 50 周年記念として、企画展「南極点 夢に挑み続けた男 村山雅美」 関屋敏隆 絵本原画展 を 1 月 26 日～2 月 28 日に開催した。絵本作家の関屋敏隆氏は、昭和 43 年 12 月 19 日に村山雅美隊長率いる南極地域観測隊第 9 次越冬隊が日本人として初めて南極点に到達し 50 年の節目を迎えるにあたり、絵本「南極点 夢に挑み続けた男 村山雅美」を刊行。第 9 次隊は南極観測船ふじの時代であることから、この絵本の原画 24 点を展示した。期間中 8,026 人の人出で賑わった。

このほか、ポートビル 2 階においては、回廊ギャラリーを一般市民に展示会場として開放し、無料休憩施設であるポートハウスにおいては、しおかぜコンサートを実施するとともに、名古屋市主催の音楽とアートのイベント「アッセンブリッジ・ナゴヤ」に協力、ポートビル、ポートハウスでのコンサートなどが開催された。その結果、ポートビル 2 階回廊ギャラリーは 14 回、ポートハウス休憩所は 40 回の利用があった。

⑩ 海洋生物等の調査研究（資料 5）

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施した。

ア 愛知県立三谷水産高校実習船「愛知丸」の航海に同乗し、高知沖でアカウミガメ（1 歳 25 個体）に標識を装着し放流調査を実施した。

イ 今年度の主な繁殖生物は、バンドウイルカ 1 個体、ブタバナガメ 1 個体、ナンキョクオキアミ 374 個体、ペンギン類 17 個体であった。バンドウイルカ 1 個体は、国内 3 例目となる人工授精によるものである。

ウ 野生動物の教育的展示と種の保存事業を促進することを目的に、学术交流協定書を締結している京都大学野生動物研究センター、京都大学霊長類研究所、岐阜大学応用生物科学部、三重大学大学院生物資源学研究科と共同研究を実施した。また、日本大学生物資源科学部、近畿大学農学部、常盤大学総合政策学部、信州大学繊維学部、東海大学海洋学部とも同様に共同研究を実施した。

エ 平成 23 年 8 月に開始した名古屋港内のスナメリの出現頻度調査は、一時中断していたが、京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター及び東海大学海洋学部環境社会学科の協力の元、平成 28 年度から再開している。本年度は「音響観測門による名古屋港へ来遊するスナメリの生態解明と船舶の音響評価」と「スナメリの来遊環境における水質変化調査」を（公社）日本動物園水族館協会の野生動物保護募金助成事業及び京都大学野生動物研究センター共同研究からの助成金を一部利用して実施した。

オ 学术交流協定を締結している京都大学霊長類研究所の支援を受け、飼育員による生息地研修を実施した。研修は、シャチについては北海道羅臼町で、北海道大学、東海大学、常盤大学による調査に同行し、イルカについては東京都御蔵島村で三重大学、近畿大学による調査に同行する形式で実施し、研究者との

情報交換を行った。

カ 学術交流協定を締結している岐阜大学応用生物科学部と三重大学大学院生物資源学研究科から、学生の教育（研修・博物館実習）を目的とした実習生を受け入れた。

キ 福島県で開催された第10回世界水族館会議をはじめとし、多くの研究会などに参加し、研究発表を行った。

ク 韓国で4つの水族館を運営するハンファホテル&リゾートとの覚書を基に、年間の飼育・繁殖研究などの進捗状況を報告する「2018年ハンファホテル&リゾート・名古屋みなと振興財団 水族館情報交流会」（12/11～14）を韓国済州島のアクアプラネットチェジュで実施した。

（2）ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業を始めとした観光振興事業（資料6-1及び資料6-2）

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等が一体的に協力して相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光情報を広く提供するため、ガーデンふ頭地区観光施設で組織された「名古屋港観光施設協議会」の事務局を務め、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進PR、誘致営業・宣伝事業等を行うとともに、本財団単独事業としても各種PRを行った。

具体的には、県内はもとより中部・北陸・関西地区を中心とした県外地域へも営業活動を展開した。旅行社等47社、幼稚園・保育園132園、小中学校や高校439校に訪問し、水族館を含む名古屋港エリアの見どころなどをPRして学習旅行などの誘致を図った。訪問した旅行社や学校などには水族館をはじめとしたガーデンふ頭諸施設の資料、水族館カレンダー及び水族館ポスターを贈呈した。なお、訪問がカレンダーの製作より早かった旅行社には郵送する形で贈呈した。

また、インバウンド対策の一つとして、（公財）名古屋観光コンベンションビューローと協力して、台湾にて開催された「日本の観光・物産博2018」に参加し、ガーデンふ頭諸施設のPRを行った。さらに、年末に東京で行われた国内最大の屋内イベントである「コミックマーケット（通称コミケ）」に出展し、グッズ販売等を通してガーデンふ頭諸施設のPRを行った。

学習旅行として来館した団体や、事前の下見に来た教員・旅行社の担当者に対して、ポストカードやペンギン羽根カード、団体向けかんさつノートなどを進呈して、今後の学校団体誘致及び情報収集に努めた。加えて、名古屋をはじめとする近隣地域のホテル・旅館に「名古屋港水族館パートナーシップホテル」として登録していただき、ニュースリリースをはじめとするガーデンふ頭諸施設の情報、割引券及び案内パンフレット等を提供し、積極的な誘客に努めた。

② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した無料情報誌（「名古屋港水族館とガーデンふ頭のにぎやか情報誌」、「ゴーゴー名古屋港（名古屋港ガーデンふ頭ガイド

マップ)」等)を発行し、県内外の各所に配布することにより、名古屋港の観光情報を発信し、来訪者の増加を図った。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関係団体に加入し、同団体主催のイベントに参加しながら、県内の観光施設との連携及び情報の共有化を図った。また、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対して、当財団の施設入場料の割引を行い、名古屋港への来訪者の増加を図ることにより、この地域の活性化を図った。このほか、ガーデンふ頭と金城ふ頭の間を運行している水上バス利用者に対して当財団の施設入場料の割引を行い、名古屋港内の回遊性を高め、観光機能の向上を図った。

④ 指定管理施設(ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ)を活用したイベントの開催(資料7)

ガーデンふ頭地区においてイベントの実施、誘致を通じ、港に賑わいを創出し親しまれる港づくりを推進した。

ア 11月に開催した「名古屋港開港祭フレンドリーポート2018」や正月3日間開催した「新春みなとカーニバル2019」の事務局を務め、賑わいを創出するとともに名古屋港のPRや集客に努め、県外も含めて、多くの来港者で賑わった。

イ ジェティ広場においては、年間を通じて各種イベントを開催、誘致し、ガーデンふ頭地区の賑わいづくりに努めた。また、繁忙期(GW・お盆等)には、ジェティテナント会の販売促進事業として、同広場を活用した集客イベントを実施することで、来港者へのサービス向上につなげた。

⑤ 指定管理施設(ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ)において賑わいの場を提供する事業

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じガーデンふ頭における賑わいの場を提供した。

ア ガーデンふ頭臨港緑園は、緑地維持業務、花壇整備等の施行により、緑豊かで快適な環境造りの推進に努めた。また、園内諸施設について、本来の美しい景観を甦らせるよう改修・修繕を積極的に実施した。

イ ジェティにおいては、飲食、物販のスペースを含めた休憩施設としての機能を生かし、名古屋港水族館を支援するとともに、名古屋港の観光施設の情報を提供・発信することにより、親しまれる港としての名古屋港の発展に寄与した。

2 公益目的事業以外の事業

(1) 管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機を運営することにより、公益目的事業の一助とした。

また、平成26年2月より発足し、生物の保護、繁殖研究等の役割のさらなる

向上に貢献している名古屋港水族館法人サポーター制度の会員数は、平成 30 年度末には 131 社、208 口となった。

(2) 船員宿泊施設の運営事業 (資料 8)

平成 25 年 10 月より、船員宿泊施設である名古屋船員会館 (ハーバーロジ なごや) の運営を行い、船員はもとより来港者の宿泊を促し、観光事業の振興の一助とした。

3 その他

名古屋港水族館以外の企業や団体などとの相互誘致、知名度アップなどの目的で、以下のイベントなどを行った。

ア ゴマフアザラシなどが展示されている「でら近っ！ごまちゃんデッキ」が、オープン 1 周年を迎えることと、北海道オホーツクエリアの空の玄関口である女満別と名古屋を結ぶ路線が 25 周年を迎えたことを記念して、中部国際空港、全日空及び網走市観光課とタイアップした「ごまちゃん納涼作戦！流水贈呈セレモニー」を開催し、メディアに広く情報発信して名古屋港水族館の PR を図った。(7 月 14 日)

イ 10 月 4 日の「イワシの日」にちなんで、株式会社浜乙女とタイアップして、「イワシの日記念スペシャルイベント」を実施した。(10 月 6 日～8 日)

資料1 スクール等の参加状況

1 「君もドリトル先生になれるか！」対象：小学生と保護者

回	日	タイトル	参加人数
1	4/15	イルカ	31名
2	4/22	シャチ	37名
3	5/13	黒潮大水槽	33名
4	6/10	ベルーガ	34名
5	6/24	ペンギン	31名
6	9/23	ウミガメ	36名
7	10/14	シャチ A 班	33名
8	10/14	シャチ B 班	37名
9	11/4	黒潮大水槽	34名
10	11/11	ベルーガ A 班	30名
11	11/11	ベルーガ B 班	36名
12	11/25	ペンギン	33名
13	2/3	イルカ A 班	35名
14	2/3	イルカ B 班	29名
15	2/24	ウミガメ	31名
参加総数合計			500名

2 「もっと知りたい！ダーウィン教室」

回	日	タイトル	対象	参加人数
1	7/23	大接近！ベルーガ飼育の舞台裏	小4～6	16名
2	8/2	感じて納得！目指せシャチ博士	小1～3	15名
3	8/9	知ればもっと好きになる！ペンギンあれこれ	小1～3	16名
4	8/22	攻略！ウミガメサバイバルゲーム	小1～3	14名
5	8/27	ウヒョーつめたい！潜入体験！南極の海	小4～6	15名
6	12/22	さわってさわって！ヒトデとウニのワンダーランド	小4～6	13名
7	12/26	感じてなっとく！めざせシャチ博士	小4～6	14名
8	12/27	年末年始も大いそがし！イルカのトレーナー体験(たいけん)	小1～3	14名
9	1/4	～ただよい生きる～ クラゲの不思議	小4～6	15名
参加総数合計				132名

3 その他スクールなどへの参加状況

事業名	開催件数	参加者数
水族館スクール	24 回	632 名
職場訪問、館内レクチャー	65 件	2,868 名
	うち 水族館 55 件 海洋博物館 10 件	うち 水族館 2,580 名 海洋博物館 288 名
職場体験	17 校	66 名
	うち 水族館 13 校 海洋博物館 4 校	うち 水族館 35 名 海洋博物館 31 名

4 教員研修受け入れ人数

(人)

	名古屋市	愛知県	合計
小学校	0	5	5
中学校	0	1	1
高校	1	15	16
その他	0	1	1
合計	1	22	23

※1 その他には、聾学校が含まれる。

※2 愛知県小学校2名のうち1名を長期(2ヶ月)に受け入れた。

資料2 機関紙等の発行

1 機関紙「さかなかな」

Vol. 98 2018 SUMMER	特集：5000 万年のクジラの歴史 進化の海コーナーをリニューアルしました
Vol. 99 2018 AUTUMN	特集：「くらげなごりうむ」オープン
Vol. 100 2018 WINTER	特集：なぜナンキョクオキアミは世界中で名古屋港水族館で見られないのか？
Vol. 101 2019 SPRING	特集：でら近っ「ごまちゃんデッキ」で元気いっぱい!! ゴマフアザラシ

2 生物情報誌「新着！海の生き物レター」

5/3 (2018)	赤ちゃんイルカの名前が決まりました!「ハッピー」です。よろしくね♪
6/8	当館初展示!深海の高級魚アカムツ
6/14	初めまして!人工授精のバンドウイルカ誕生!
6/20	アカウミガメの子ガメ 大海原への旅立ち
9/6	野生のシャチを間近で観察!
3/14 (2019)	アメフラシでエサやり体験～ “海のウサギ” もキャベツが好き
3/15	ケープペンギン繁殖成功!

資料3 ポートビル施設特記事項

事業名	開催会場	実施時期	参加人数
名古屋海洋博物館クイズラリー	3階博物館内	5/3～5/6	400人
南極の氷に触れてみよう	南極観測船ふじ	5/3～5/6	6,818人
特別展「遙かなる海を越えて ～帆船時代の大冒険～」	3階博物館内	7/14～9/2	27,669人
第34回ボトルシップ展	3階博物館内	11/1～1/14	26,896人
帆船模型展	2階B会議室	11/4～11/18	1,766人
企画展 南極点到達50周年記念 絵本「南極点 夢に挑み続けた男 村山雅美」関屋敏隆 絵本原画展	3階博物館内	1/26～2/28	8,026人
第15回南極教室	4階講堂	8/26	89人
第51回名古屋港港湾ゼミナール	4階講堂	9/13	68人
第33回名古屋港を描いた作品コンクール	4階講堂	開催日 11/3 表彰式 1/27	523点
第12回南極観測船ふじでの星空観察会	南極観測船ふじ	12/15、16	40人
オホーツクの流氷展 『オホーツクの流氷に触れてみませんか』	南極観測船ふじ	3/1～3	1,317人
第34回ボトルシップの作り方入門教室	4階講堂	8/5	72人
夏休み工作教室(3D立体色紙を作ろう!)	4階講堂	8/12	66人
工作教室(ペーパークラフト教室)	3階博物館内	4～10月1～3月の第4土曜日	283人
工作教室(立体カード工作教室)	3階博物館内	4～10月1～3月の第2土曜日	146人
ボトルシップ製作講座	3階博物館内	11・12月の土日祝	45人

資料4 ボランティア活動特記事項

1 水族館

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
水族館内解説活動 (タッチタンク・マイクロアクアリウム・ 南極コーナー・ウミガメ・ペンギン・サ ンゴ・進化の海)	7,332時間20分	2,445人
水族館スクール支援活動	415時間45分	134人
その他(ワークショップ開催等支援活動)	1,464時間30分	426人

2 南極観測船ふじ

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
メンテナンスボランティア	93時間	26人
解説ボランティア	587時間	232人

3 名古屋海洋博物館

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
解説ボランティア	260時間	123人

資料5 飼育展示等関係特記事項

項 目	内 容
展示	<p>1 特別展の実施</p> <p>(1) 特別展「カメ、知ってる?～意外に知らない日本のカメ事情～」を開催 (10/28～5/28) 日本に生息する淡水、陸生のカメの仲間について在来種を脅かす帰化種に対する啓蒙を含めて展示</p> <p>(2) 特別展「へん (だけど) カワ (イイいきもの) 展」を開催 (7/14～1/20) 容姿が一見気持ち悪いが、どこかかわいらしいところがあったり、不格好に見えるけどかわいらしさがある生物を紹介</p> <p>(3) 特別展「寿司ネタ大集合 ～水族館が斬る! 寿司のいろいろ～」を開催 (3/16～) 寿司ネタとしての生物を水族館的に紹介することを目的として展示</p> <p>2 期間展示の実施</p> <p>(1) 季節展示 花見、子どもの日、ナマズ、七夕、月見、ハロウィン、クリスマス、正月・干支、バレンタイン、雛祭り</p> <p>(2) 写真展「飼育係が見た野性の姿～羅臼のシャチと御蔵島のイルカ～」(10/10～10/28、1/26～3/31)</p> <p>3 常設展示の変更</p> <p>(1) 南館1階“海のギャラリー”コーナーを「くらげなごりうむ」にリニューアル (7/21～)</p> <p>(2) 南館3階“南極の海”コーナーを展示面造作変更などリニューアル (3/23～)</p> <p>(3) 南館2、3階“ウミガメ回遊水槽”を擬岩改修、展示ガラス交換などリニューアル (3/28～)</p> <p>4 解説・バックヤードツアー等</p> <p>(1) 南館フィーディングタイム ・黒潮大水槽、サンゴ礁大水槽、ウミガメ回遊水槽、ペンギン水槽</p> <p>(2) 黒潮大水槽 ・マイワシのトルネード (毎日)</p> <p>(3) サンゴ礁大水槽 ・ダイバーコミュニケーション (毎日)</p> <p>(4) ペンギン水槽 ・ペンギンコミュニケーション (土曜日、夏休み期間平日) ・ペンギンミニ講座 (4～9月の土日祝)</p>

- (5) イルカ
- ・イルカパフォーマンス（毎日）
- (6) ベルーガ
- ・ベルーガの公開トレーニング（毎日）
 - ・「ベルーガの不思議な魚の食べ方」実施（毎週土・日・祝・繁忙期）
- (7) シャチ
- ・メインプールなどで公開トレーニング解説実施（毎日）
 - ・北館 2 階「進化の海」展示コーナーにてミニガイドツアー実施（2018/3/22～4/6）（平日）（参加人数 135 名）
 - ・北館レクチャールームにてレクチャー「シャチに会いに行こう!～シャチトレーナーin 知床羅臼～」実施（44 名参加）（3/16、24）
- (8) アザラシ
- ・フィーディングタイム（毎日）
- (9) ケープペンギン
- ・フィーディングタイム（毎日）
 - ・「ペンギンよちよちウォーク」（4/1～6/30、9/1～11/30、3/21～ 毎日）
- (10) 夏休み期間
- ・お泊り水族館（計 25 組 66 名参加）（7/29～30、8/5～6）
- (11) その他の期間
- ・ナイトウォッチング（10/6～28 の土日祝 計 6 回、253 名参加）
- (12) 黒潮大水槽バックヤードツアー
- ・団体向け黒潮大水槽バックヤードツアー（127 件、5,142 人）
- | | | | | | |
|-----|------|-------|------|------|-------|
| 4 月 | 1 件 | 27 人 | 10 月 | 17 件 | 740 人 |
| 5 月 | 6 件 | 205 人 | 11 月 | 12 件 | 601 人 |
| 6 月 | 15 件 | 801 人 | 12 月 | 8 件 | 188 人 |
| 7 月 | 19 件 | 719 人 | 1 月 | 6 件 | 290 人 |
| 8 月 | 20 件 | 868 人 | 2 月 | 7 件 | 234 人 |
| 9 月 | 6 件 | 168 人 | 3 月 | 10 件 | 301 人 |
- (13) ボランティアによるワークショップ
- ・ボランティアによるお話し会（5/20：70 名、7/29：65 名、8/25：71 名、1/19：59 名）
 - ・ボランティアフェスタ
 - タッチタンク（7/1：53 名）
 - ウミガメ（8/4：200 名）
 - 鯨類（11/23：200 名以上）
 - にぼしの解剖（2/3：250 名）
 - ・ボランティアによる工作会
 - ちくちくペンギン教室（フェルト工作）（7/14：27 名、1/13：41 名）
 - オリジナルポストカード作成（11/24：100 セット）

	エコ「亀の子」たわし作成 (3/30 : 42 セット)
調査研究 シンポジウム 関係等	<p>1 共同研究</p> <p>(1) 岐阜大学応用生物科学部と「ブタバナガメの繁殖生理に関する共同研究」「ペルーガの性行動に関する共同研究」</p> <p>(2) 近畿大学農学部と「シャチの社会行動とホルモンに関する研究」</p> <p>(3) 近畿大学農学部、京都大学霊長類研究所と「飼育シャチにおける目使用に関する研究」</p> <p>(4) 常磐大学コミュニティ振興学部と「飼育下シャチの鳴音と社会行動の関係」</p> <p>(5) 日本大学生物資源科学部と「名古屋港水族館 飼育環境等の真菌調査・飼育動物の真菌調査」</p> <p>(6) 京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター、東海大学海洋学部海洋学部環境社会学科と「名古屋港に來遊するスナメリの周年変動」</p> <p>(7) 三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センター、岐阜大学応用生物科学部(動物繁殖学研究室)、近畿大学農学部(海棲哺乳類学研究室)と「シャチの繁殖に関する研究」</p> <p>(8) 信州大学繊維学部機械・ロボット学科と「イルカの立ち泳ぎメカニズムの解明と高推力水中推進機構開発への応用」</p> <p>(9) 近畿大学水産学科と「飼育バンドウイルカにおける社会構造に関する研究」</p> <p>2 シンポジウム・研究会などの参加</p> <p>(1) 羅臼のシャチ調査(京都大学霊長類研究所共同研究)(5/12~19) 参加</p> <p>(2) 京都大学野生動物研究センター創立 10 周年記念シンポジウム「野生動物との共存をめざして」(6/11) 参加</p> <p>(3) 日本動物園水族館協会 第 116 回中部ブロック飼育技術者研修会(6/21、22) 参加</p> <p>(4) 御蔵島のミナミバンドウイルカ調査(京都大学霊長類研究所共同研究)(7/2~5) 参加</p> <p>(5) 第 24 回日本野生動物医学会(9/1、2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バンドウイルカにおけるミカファンギン投与後に誘発された白血球減少症および顆粒球コロニー刺激因子を用いた治療例」を口頭発表 <p>(6) 三重大学シンポジウム「ミナミバンドウイルカの生態」(9/23) 参加</p> <p>(7) 日本動物園水族館協会 第 66 回動物園技術者研究会(9/27~29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<i>Pygoscelis</i> 属ペンギンの圧死防止を目的とした短期人工育雛」を口頭発表 <p>(8) 第 2 回犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム(10/13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「野生のイルカを観察して飼育係が感じたこと」「シャチ展示の工夫と現実」「シャチトレーナーが見た羅臼」を口頭発表

- (9) 日本動物園水族館協会 第 117 回中部ブロック飼育技術者研修会 (11/7、8)
- ・「繁殖個体のパフォーマンスレビューについて」を口頭発表
- (10) 第 10 回世界水族館会議 (11/7～10)
- ・「Observation of breeding behavior in captive Emperor penguin.」を口頭発表、「Japanese Pygmy Squid *Idiosepius paradoxus*: Its Life History and Potential as a Model for Cephalopod Research, Exhibition, and Education」をポスター発表
- (11) 第 3 回 JACRE トレーニングセミナー (11/20、21) 参加
- (12) 日本動物園水族館協会 第 63 回水族館技術者研究会 (11/27、28)
- ・宿題調査「飼育魚類に使用する薬剤等について」を口頭発表
- (13) 日本動物園水族館協会 第 44 回海獣技術者研究会 (12/5、6)
- ・「バンドウイルカの人工授精の 1 例」「進化の海コーナーのリニューアル」を口頭発表
- (14) 第 9 回極域科学シンポジウム (12/5) 参加
- (15) 日本動物園水族館協会 平成 30 年度水族館・教育事業－参加型研修会「水族館を利用した食育プログラムの開発」(12/13、14) 参加
- (16) 日本動物園水族館協会 平成 30 年度動物園・教育事業－参加型研修会「視覚障害者を対象とした特別支援学校向け環境教育プログラムの開発」参加 (1/24、25)
- (17) 日本鯨類研究協議会 (JACRE) 第 2 回海外視察研修会 (香港オーシャンパーク他) 参加 (2/17～21)
- (18) 日本鯨類研究協議会 (JACRE) 第 2 回水族館研究会 (2/27、28)
- ・「タマカイの腹腔内貯留ガスの抜気処置」を口頭発表
- (19) 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 公開水産科学実習参加 (3/4～7)
- (20) 2018 年度勇魚会シンポジウム (3/17、18)
- ・「名古屋港水族館の「進化の海」の進化 (リニューアル)」を口頭発表
- (21) 2018 年度 動物園水族館大学シンポジウム (3/22)
- ・「名古屋港スナメリプロジェクト」「名古屋港水族館における屋内施設でのウミガメ類の繁殖」「飼育下エンペラーペンギンの繁殖期における行動観察」をポスター発表

3 シンポジウム・研究会などの開催

- (1) 2018 年ハンファホテル&リゾート・名古屋みなと振興財団 水族館情報交流会 (12/11～14) 韓国済州島 (参加者 36 名)

4 展示、研究協力

- (1) 名古屋コミュニケーションアートより延べ 24 名の研修受入れ (周年)
- (2) 岐阜大学応用生物科学部実習生受入れ (1 名)
(8/22～9/4)

	<p>(3) 三重大学生物資源学部実習生受入れ (1名) (9/3～9/16)</p> <p>(4) 大阪 ECO 動物海洋専門学校より研修生受入れ (2名) (5/5～23)</p> <p>(5) 愛知県立三谷水産高校実習生受入れ (5名) (8/27～30、12/27、28)</p> <p>(6) 大阪動植物海洋専門学校より研修生受入れ (3名) (1/10～2/15)</p> <p>5 職員派遣</p> <p>(1) 日本動物園水族館協会から委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンツーペンギン等、血統登録担当者 (継続) ・生物多様性委員会国際保全事業部員 ～H31年5月 ・教育普及員会学術研究部員 ～H31年5月 ・総務委員会情報システム運営部員 ～H31年5月 ・平成30年度生物多様性委員会 (6/13) ・平成30年度学術研究部会 (10/4、2/6) ・平成30年度情報システム運営部会 (7/19) ・第2回 イルカ会議 (1/31) <p>(2) 日本鯨類研究協議会から委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯨類長期飼育・繁殖推進委員 ・幹事 ・鯨類長期飼育・繁殖推進委員会 (11/21) ・幹事会 (4/18、5/18) <p>(3) その他委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年愛知県外来種検討委員 <p>(4) 館外レクチャー (一般等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市高年大学鯨城学園に1名講師派遣「ウミガメの命をつなぐ」 15名参加 (7/11) ・熱田神宮緑陰教室に1名講師派遣 小3～4 約300名が参加 (7/30) ・港文化小劇場にて講演会「サメの不思議にせまる」に1名講師派遣 240名参加 (1/20) ・岐阜県瑞浪市立瑞浪南中学校に1名講師派遣 中1～3 15名参加 (11/14) <p>(5) 他園館協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンファホテル&リゾート (鯨類の疾病に対する技術指導) (7/10～16)
<p>講演 イベント等</p>	<p>1 飼育 (4/19) の日イベント (4/21～22) 「飼育の日キーパートーク」「子ガメとのふれあい」「水族館裏側探検」</p> <p>2 「子ガメにタッチ」を南館3階で7/21～8/31の平日に実施</p>

	<p>3 名古屋駅前ミッドランドスクエアにて「AQUA LIVE! in ミッドランドスクエア 2018」を開催 (7/28~8/12)</p> <p>4 学術交流協定共同研究講演会</p> <p>(1) 「遺伝子から野生動物を見る ~野生動物保全ラボの挑戦~」講師：京都大学野生動物研究センター 村山美穂センター長(北館レクチャールーム) (参加者 51 名) (9/29)</p> <p>(2) 学術交流協定共同研究講演会「伊勢湾のスナメリ 私たちに身近なイルカの暮らし」講師:三重大学大学院生物資源学研究所 吉岡基教授(北館レクチャールーム) (参加者 79 名) (3/9)</p> <p>5 受験生応援企画「エンペラーペンギンの幸せの黄色い羽根をプレゼント」を 1/5、6 に実施</p>																					
<p>主な繁殖動物</p>	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>バンドウイルカ</td> <td>1 個体</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>キタジェンツーペンギン</td> <td>4 個体</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アデリーペンギン</td> <td>8 個体</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ヒゲペンギン</td> <td>4 個体</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ケープペンギン</td> <td>1 個体</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ブタバナガメ</td> <td>1 個体</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ナンキョクオキアミ</td> <td>374 個体</td> </tr> </table>	1	バンドウイルカ	1 個体	2	キタジェンツーペンギン	4 個体	3	アデリーペンギン	8 個体	4	ヒゲペンギン	4 個体	5	ケープペンギン	1 個体	6	ブタバナガメ	1 個体	7	ナンキョクオキアミ	374 個体
1	バンドウイルカ	1 個体																				
2	キタジェンツーペンギン	4 個体																				
3	アデリーペンギン	8 個体																				
4	ヒゲペンギン	4 個体																				
5	ケープペンギン	1 個体																				
6	ブタバナガメ	1 個体																				
7	ナンキョクオキアミ	374 個体																				
<p>飼育動物の譲渡等</p>	<p>1 ブリーディングローン (繁殖を目的とした生物の貸借)</p> <p>(1) アドベンチャーワールドとエンペラーペンギンのブリーディングローンを平成 21 年から継続中 (平成 30 年度個体交換)</p> <p>(2) 鳥羽水族館とニシキマゲクビガメのブリーディングローンを平成 21 年から継続中</p> <p>(3) 長崎ペンギン水族館にヒゲペンギンのブリーディングローンを平成 26 年から継続中</p> <p>(4) 八景島シーパラダイスとバンドウイルカ (雄 3 頭) のブリーディングローンを平成 29 年度から継続中</p> <p>(5) 東京都恩賜上野動物園から平成 29 年度よりブリーディングローンで 21 羽借受け</p> <p>2 生物の貸し出し及び譲渡</p> <p>(1) 葛西臨海水族園にタイマイ 1 頭貸出し (H26, 9/10~H30, 6/7)</p> <p>(2) 南知多ビーチランドへアカウミガメ 4 頭(4/23)、タイマイ 1 頭(11/16) 譲渡</p> <p>下田海中水族館へアカウミガメ 1 頭譲渡 (6/1)</p> <p>(3) 名古屋市科学館アデリーペンギン骨格標本貸し出し (10/26~11/14)</p> <p>(4) 岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室にバンドウイルカの頭部除く全身骨格譲渡 (鯨類の解剖、形態観察および骨格標本作成のため)</p> <p>3 生物の交換</p> <p>(1) アドベンチャーワールドとアデリーペンギン、ヒゲペンギンの交換</p>																					

	(2) 鶴岡市立加茂水族館とクラゲ類の交換、市立室蘭水族館とトヤマエビ類、ハナヒゲウツボの交換
--	---

資料6-1 誘致宣伝事業・観光振興事業特記事項

事業名	開催場所	開催時期
名古屋まつり	名古屋市久屋大通	10/20～21
旅まつり名古屋 2019	名古屋市久屋大通	3/16～17

資料6-2 団体観光客及び学習旅行の誘致等のため訪問した施設

地方	出張先	小学校	中学校	高 校	幼稚園 保育園	旅行社	ランド・オ ペレーター	計
東海	愛知	13	13					26
	岐阜	41						41
	三重	22		16	30	5		73
	静岡		1	35	102			138
	東海計	76	14	51	132	5		278
関西	大阪	129				7		136
	京都	65				2		67
	関西計	194				9		203
甲信越	長野	89	1	7		6		103
北陸	福井	7				22		29
関東	東京						5	5
		366	15	58	132	42	5	618

資料7 施設の管理運営特記事項（各施設の利用状況）

1 各施設の利用実績

施設名	入館者数又は利用数
名古屋港水族館	2,105,406人
ポートビル 講堂・会議室	1,021回
同 展望室	150,313人
同 名古屋海洋博物館	139,936人
同 2階回廊ギャラリー	334日
南極観測船ふじ	166,054人
ポートハウス休憩所（しおかぜコンサート等催し物40件）	3,523人
ガーデンふ頭一般駐車場	282,827台
つどいの広場イベント	14回
ジェティ来館者	1,296,780人
ジェティ広場イベント	14回

2 つどいの広場利用実績

事業名	主催者	日程	来場者数
築港祭2018	築港祭実行員会	4/29	約15,000人
JC青年の船 出航式	45回 JC青年の船「とうかい号」歓送迎委員会	6/3	約1,200人
JC青年の船 帰港式	45回 JC青年の船「とうかい号」歓送迎委員会	6/10	約1,200人
LAGP2018-2019 Champion Series	(株)LAGP	6/23、24	約1,200人
第71回名古屋みなと祭	海の日名古屋みなと祭協賛会	7/16	約360,000人
タミヤRCカーグランプリ	(株)タミヤ	9/8、9	約600人
名港水上芸術花火2018	名港水上芸術花火開催委員会	10/13	約15,000人
毛遊び	愛知県沖縄県人会連合会	10/21	約4,000人
平成30年度港区区民まつり	港区区民まつり実行委員会	11/3	約63,000人
名古屋港開港祭フレンドリーポート2018	フレンドリーポート実行委員会	11/11	約40,000人
秋の大撮影会	イサン(株)(トップカメラ)	11/13	約300人
イルミネーション～笑顔が 弾む光の港	名古屋港冬のにぎわい創出実行委員会	12/8～25	約7,500人
ISOGAI 花火劇場 in 名古屋港	名古屋港冬花火実行委員会	12/24	約50,000人
出初式	名古屋市消防局	1/13	約16,000人

3 ジェティ広場利用実績

事業名	主催者	日程	来場者数
難民支援啓発イベント	国連高等弁務官事務所 (UNHCR 協会)	4/28～5/2	約 10,000 人
合唱イベント	豊田市立御作小学校	5/24	約 100 人
アクアボール体験 ※催事出店	NPO 法人スポサポ	7/14、15	214 人
納涼夏祭り 2018 in 名古屋港	ネッツトヨタ 名古屋みなと振興財団	7/21、22	約 27,000 人
サマー献血キャンペーン 2018	愛知県赤十字センター 愛知県学生献血連盟	8/19	約 6,000 人
名港芸術花火 PR イベント「なごラッコバルーン陸上展示」	NAGOYA B-side	9/22～24	約 8,000 人
秋のミニコンサート	東海学生吹奏楽連盟	9/23	約 2,000 人
シャボン玉体験会	名古屋大学「シャボン玉サークル・ゆどうふ」	10/7	約 2,000 人
周南市 PR イベント	周南市役所	10/21	約 2,000 人
秋の取締強化期間キャンペーン	名古屋税関	10/27	約 1,500 人
よせ植え作品発表会	ゆめランド稲荷公園愛護会	11/3～11	約 2,000 人
新春みなとカーニバル 2019	ガーデンふ頭新春イベント実行委員会	1/1～3	約 15,700 人
消防出初式関連イベント 「消防ふれあい広場」	名古屋市消防局	1/13	約 3,000 人
パフォーマーフェスティバル	ジェティテナント会	3/21～4/7	約 13,000 人 (～3/31 約 7,000 人)

ナゴヤポップアップアーティスト	ナゴヤ・パフォーマー事業 実行委員会	平成 30 年度中 60 日間利用
ジェティ広場大道芸	(一社) 中部大道芸まちづくり協会	平成 30 年度中 44 日間利用

資料8 名古屋船員会館宿泊実績

月	宿泊人数	前年度比
4月	2,387人	99.9%
5月	2,318人	107.8%
6月	1,541人	92.6%
7月	2,306人	98.8%
8月	3,454人	103.7%
9月	2,089人	103.1%
10月	2,073人	77.9%
11月	1,918人	88.7%
12月	2,077人	144.1%
1月	1,210人	93.2%
2月	1,498人	92.4%
3月	2,291人	98.1%
合計	25,162人	99.0%